

発芽前の防除の要点

発芽前の病虫害防除は、粗皮削りや園地清掃等の作業と薬剤散布を組み合わせ、越冬害虫と病原菌の密度を減らす必要があります。粗皮削りは、樹幹上で越冬する害虫の一掃と腐らん病の早期発見にもなるので、特に普通樹では重要な作業となります。また、昨年モニリア病、黒星病、斑点落葉病、キンモンホソガの多発園では、落葉を集めて焼却するなど園地清掃が有効です。

発芽前の薬剤散布は腐らん病とリンゴハダニの防除を対象にしています。腐らん病は、近年わい性樹に増加傾向がみられ、人手不足などにより、病患部の削り取りや罹病枝のせん除の不徹底が、多発要因になっています。せん定後は、よく園地を見回り、わい性樹では側枝の基部や切り口癒傷組織部が発病しやすいので、よく注意し早期発見、適正処理に努めましょう。

発生園地ではトップジンM水和剤、石灰硫黄合剤、ベフラン液剤25を発芽前に10アール当たり、300リットル散布します。

リンゴハダニが多い園地では、マシン油乳剤を散布しますが、成分濃度が異なるので注意します。

また、石灰硫黄合剤以外は腐らん病薬剤と混用できるので同時防除が可能です。



リンゴハダニ 雌成虫と卵 *青森りんご試 川嶋



腐らん病 側枝基部の発病